



大勢の参加者で開催されたシンポジウム＝熊本市国際交流会館

当日は農林業関係者、一般市民や行政関係者など定員を上回る約240人の参加があり、一部の方にはモニターなどで見ていただくなど、シカ被害対策に対する関心の高さがうかがえました。第一部では石橋暢生九州森林管理局保全課企画官による「九

九州森林環境シンポジウムを開催
地域と連携したシカ被害対策と個体数管理

2月17日熊本市内の熊本市国際交流会館において、九州森林環境シンポジウムが開かれた。九州においてはシカの生息頭数が推定で約27万頭と目標頭数の約5・8倍と高い生息密度と

なっており、また、生息域も拡大傾向にあり、シカによる被害は農林業に留まらず希少植物をはじめとする下層植生の消失などによる森林の生物多様性の劣化や国土保全機能の低下が懸念される状況となっています。このため、地域と

連携したシカ被害対策と個体数管理をテーマとして開いたものです。 第二部のパネルディスカッションでは、コーディネーターに森貞和仁森林総合研究所九州支所長を迎え、パネリストには第一部

九州におけるシカ被害対策の推進について、渡邊康広九州農政局生産技術環境



第2部のパネリストのみなさん

また、会場のまわりでは、獣害防止ネットやシカ肉を利用したペットフードの展示も行われました。 多くの方々が参加され、発表及び議論を通じた情報の発信・交換・共有ができたシンポジウムとなりました。 (担当 保全課 企画官(自然再生担当))



発表する九州農政局渡邊課長補佐





佐賀森林管理署  
三瀬森林事務所

首席森林官 森 浩

佐賀県と福岡県の県境に位置する脊振山(せふりさん)は、標高1054・6㍎を有する脊振山系最高峰の山であり、日本三百名山にも選ばれています。



脊振山の山頂から西方面の眺望

# 日本三百名山の一つ 「脊振山」1050・6㍎

名前の由来は、「天竺から弁財天様を乗せて飛んできた龍が、山の上まで来て天に向かって三度いななき、背びれを打ち振ったことから名付けられた」との一説が伝えられており、山頂にある上宮の神殿には、弁財天様がご神体として祀られています。また、脊振山系一帯は、古くは霊山として多くの修行僧が暮らす山岳密教の修験(しゅげん)場であったため、山岳仏教として栄えた脊振千坊一帯を脊振山といっていたことも考えられます。なお、現在の脊振山と呼んでいる山頂は、上宮獄または弁財獄と呼び、霊域として尊んできました。



脊振山の遠望

このように、一見険しいイメージの脊振山ですが、山頂直下の駐車場から歩道を300㍎(約10分)ほど登れば山頂へ到達し、山頂からは、福岡市、佐賀平野、有明海、玄界灘が一望でき、天候が良ければ、有明海の彼方に雲仙岳を望むことができます。



駐車場から頂上への歩道

このように、気軽に登れて絶景が楽しめることや九州自然歩道の一部でもあることから、五穀豊穰を願う参拝者のほか、ハイキングや散策にも多くの方々を訪れており、特に、元旦にはご来光と初詣客で賑わいを見せています。皆さんも是非一度、お気軽に360度の大パノラマを満喫し、心身をリフレッシュされてはいかがでしょうか。なお、駐車場までの道路は、航空自衛隊(脊振山分屯基地)のアクセス道となっており、12月29日から1月4日の間を除き、夜8時から翌朝5時までは一般車両の通行はできませんのでお出かけの際にはご注意ください。

## 竹富町へ防風林造成の指導

【西表森林環境保全ふれあいセンター】竹富町自然保護課と西表島にある竹富町リサイクルセンター周辺の防風林造成に関する打合せを行いました。台風でフェンスなどが壊れる被害が出たことから、被害の軽減方策について相談を受けていました。現地において、当センターから情報提供を行い、海岸から直接吹き付ける強風を防止するための、防風林造成方法について検討しました。その結果、竹富町では、リサイクルセンター周辺に防風林を造成することとし、アダシ、モンパノキ、テリハボクなど郷土樹種を生かした防風林造成を行うことになりました。



竹富町と現地地で検討を行う川西表森林環境保全ふれあいC



# 九州森林管理局林政記者クラブが現地視察 〜世界自然遺産推薦候補地の沖縄本島・西表島の国有林を案内〜

国有林野事業への理解を深め



西表島の視察「サキシマスオウノキ」前で

ていただくために、当局では1月29日〜31日の3日間、九州森林管理局林政記者クラブ4社（林材新聞・日刊木材新聞・林経新聞・サイモク新聞）による現地視察を行いました。川端省三局長らが世界自然遺産推薦候補地域に選定されている沖縄県竹富町西表島から沖縄本島北部地域（やんばる）の国有林の森林・林業や希少野生動植物の現状について案内しました。

西表島森林生態系保護地域の概要などや保全センターの活動内容の説明を受け、仲間川、浦内川や星立天然保護区域でマンングロープ林、ヤエヤマヤシや「森の巨人たち100選」に選定されている「仲間川のサキシマスオウノキ」やオキナワウラジロガシやリュウキュウマツなどの原生林に近い亜熱帯性の植物群を視察するなか希少種のカンムリワシも現れ、生物多様性の豊かさを実感。沖縄県内に現存する築150年と推定される木造茅葺き民家で平成6年に有形文化財の指定を受けた新盛家住宅や琉球王府時代の伝統的な建築様式で作られ、沖縄における上級士族の屋敷構えを残している



ヤンバルにて岡本署長の説明を受ける

旧宮良殿内を見学、柱や梁には西表島産のフクギやイヌマキを内装にはセンダンなどを使用しているなど説明がありました。沖縄北部国有林では、岡本一孝沖縄森林管理署長からイタジイ、イジユを主体とする常緑広葉樹の天然林を遠望しながら、米軍の沖縄北部訓練場としての貸付区域の一部返還が意図され、返還後に世界自然遺産区域の担保措置である森林生態系保護地域や自然公園保護地区の設定が重要な課題であること、また、勅令貸付地や隣接する国有林の取扱いについて今後の検討課題との説明があり、記者からは活発に質疑、意見が交わされました。最後に世界遺産に登録されている首里城を見学。建築用・修復用にはイヌマキが主要材として使われており、沖縄の文化と林業の関わりを確認する事ができました。

（担当＝総務課）

## 多様な資源を、さまざまな手法で

昨年6月から宮崎県日南市に参りました。平成14・15年度に屋久島森林管理署に勤務し、九州森林管理局管内の皆様には大変お世話になりました。多くの方面にご無沙汰しております。



宮崎県 日南市

副市長

稲本 龍生

かその観光振興を担当することになるとは思いませんでした。餌肥城の石垣も当時のままで感慨深いものがあります。

当地域は柑橘、マンゴー、和牛、カツオなど農林水産物の生産が盛んですが、素材出荷が多いこと、高卒者の就職先が少なく、雇用創出が最優先課題です。現

在、日南市では、34歳の若い崎田恭平市長の下、付加価値をつけた製品を市外に売っていく「外貨獲得」と、シャッター通り商店街を居心地の良い空間に変え来訪客を増やす「内需拡大」に取り組んでいます。

そのものを広げようとする取り組みを進めています。宮崎県南の人情厚くのおんびりした土地柄に魅かれる一方、時代に即した「顧客本位」「サービスを受ける立場」での施策立案の必要性も強く感じています。

市長も民間人を登用し、マーケティングや街並みづくりの最新手法を取り入れており、自然と資源と歴史を生かし、私たちの活力を取り戻したいと考えています。今後ともよろしくお願ひ申し上げます。



平成15年に吉田産業さんに分収育林の売り込

みに来た際、宮崎南部森林管理署にお世話になり、餌肥駅前のホテルに泊まりましたが、まさ

に



# 第2回照葉樹林復元ボランティア間伐

## 地元綾中学生ら22人が参加

2月22日宮崎県綾町中尾国有林において、平成25年度第2回照葉樹林復元ボランティア間伐及び森林の散策などが、綾の照葉樹林プロジェクト連携会議主催（九州森林管理局、綾町、日本自然保護協会、てるはの森の会）で開かれ、地元の綾中学校

の生徒や一般参加者など22人が参加して行われました。

当日は、綾町・川中キャンプ場で開会式が行われ、主催者を代表して木林静夫宮崎森林管理署次長が挨拶、松永善人九州森林管理局森林施業調整官から「照葉樹林や綾のプロジェクト

の生徒や一般参加者など22人が参加して行われました。指導や準備体操を行い全体を5班に班編成後、作業地に移動し、森林管理署担当者による間伐の実演及び安全指導を受け、1〜3班は「間伐」を森林管理局・署職員の指導の下で行い、4〜5班はガイド2人が付く森林散策に分かれ60分交代で生徒同士

や同僚らと一緒に楽しく作業を行いました。参加した綾中学校の生徒らは「間伐作業が初めてで、森林管理署などの皆さんの指導の下、杉の木を倒せて記念になった」、一般参加者からは「とにかく貴重な体験だった。照葉樹林や動物の話が聞けて良かった」などの声が聞かれました。

（担当川計画課）



ボランティア間伐に参加したみなさん



後藤万寿雄さん

私の住んでいる玖珠町は日田林業の一角として、山々に囲まれた盆地で、それより出する溪流によって農業・林業が営まれています。

林業後継者として、仲間と林業研究グループを設立。また、大分県版のグリーン・インストラクター講座で認定、NPO法人の一員として、地元の小学生

を対象に、みどりの少年団を結成。家の前に町を代表する、天にもとどく楠木の太木を伐採した由来の切り株状の山、伐株山をフィールドに小学生の子供達と、毎年行われる県の植樹大会や、緑化キャンペーン時の緑の募金活動として街頭に立ったり、特産の椎茸の駒打ち、伏込み、収穫体験など、自然を対象に、いろんな活動を

する中で、木工教室を兼ねて、巣箱を作り巣箱掛けをし、昨年掛けた巣箱は、次の営巣ができるように古い巣を取り出す作業をします。ところが、折角産卵した卵が孵化せず、そのまま残っている。おそらく、立木に掛けた巣にもそうした現象があるだろう。このままだと、害虫を主

の発生が多くなり、今まで保たれていたバランスが壊れて、樹木の成育がどうなるだろうか？数年前、大学教授に何うと、「親鳥の皮膚が、大気汚染によって、いちじるしく薄くなっている事も確認しているので、そう

したふ化しない卵もありうるだろう」とお話し頂いた。近年、イノシシやシカが増え過ぎて多大な害を及ぼしている現状、いろんな要因が考えられるが、昔は、生計のために猟をしたり、オオカミがイノシシ・シカの子供を狩ったり、他の組み合わせによってある程度のバラ

# 次世代の子供達と

したふ化しない卵もありうるだろう」とお話し頂いた。

理解する事が出来ました。

近年、イノシシやシカが増え過ぎて多大な害を及ぼしている現状、いろんな要因が考えられるが、昔は、生計のために猟をしたり、オオカミがイノシシ・シカの子供を狩ったり、他の組み合わせによってある程度のバラ

分が植付けのコストが高く限られた時期とされていた植付けも新しく研究開発された「コンテナ苗」は、年中植付可能となり労働配分を気にする事なく作業が出来る。林家として有り難い事である。また、シカの害を減

らす適正頭数対策の一助となる。今までの捕獲器具に加えて、軽量で容易に設置出来る器材の開発によって目的を促進出来ると思われま

（大分県玖珠郡在住）



# 第3回 国有林材供給調整 検討委員会を開催

昨年は、堅調な住宅着工を背景に木材需要が旺盛で、原木不足で価格が急騰したことから、九州森林管理局では、第2回の委員会の検討を経て、11、12月に立木販売の前倒し(供給調整)を行いました。一方、年が明けからは、需給の逼迫感は和らぎ、価格は弱含みとなりました。

このような木材の需給動向や国有林材の供給状況を元に、2月18日の委員会では、「現時点では緊急に国有林材の供給調整を行うことは要しない。今後、製材、合板、チップ(製紙・発電用)などの需要への確に対応



第3回国有林材供給調整検討委員会の様子

し、民有林・国有林とも安定供給に一層努めることが必要である」との検討結果となりました。委員からは、「出材の多い時期であり、生産意欲が落ちないよう、原木価格を維持することが重要。／安定的な生産が一番大事。価格も安定的であることが望ましい。／民有林も体制を整えて増産につなげたい。国有林は安定的に材を出してほしい。／合板用丸太は不足しているが、タイムラグもあり、需給は落ち着いてくるとみている。／国有林のシステム販売や民有林の協定取引を推進することが、需給



冒頭挨拶を述べられる川端局長

2月6日「第3回西表島森林生態系保全管理委員会」を石垣市において開き、学識経験者や地元関係者などで構成する委員から西表島森林生態系保護地域の保全・管理についての意見・助言を頂きました。委員会では、事務局からこれまでの論点を整理して説明し森林生態系保護地域のコアゾーン・バッファゾーンごとの具体的な保全・利用の考え方、希少種・外来種対策の



西表島森林生態系保全管理委員会の様子

# 第3回 西表島森林生態系保護地域保全管理委員会 石垣市で開く

安定につながる。／紙とパイオマス発電用は同じC材を使う。システム販売や立販を通じたC材の供給増を要望する」

などの意見が出されました。(注)委員会の概要は局ホームページに掲載 (担当)地域木材情報分析官

考え方、マナーなどの周知啓発の方法、モニタリング調査の考え方などについて具体案を示し議論を行いました。委員からは、利用に当たってはガイド認定制度や地域の考え方、取り組みが重要であるとの意見や、横断道の利用時における安全対策などについて活発な意見が出されました。

今後は、委員からの意見や助言を整理し、来年度中に第4回の保全管理委員会を開き、保全管理計画の中間とりまとめを行い第5回保全管理委員会では保全管理計画を策定することとしています。

(担当)計画課

## 「巾着式あみはこわな」講習会

【熊本森林管理署】近年、シカによる農林業被害、森林の生物多様性の劣化、植生の消失による表土の流失などの悪影響が顕著になっていきます。このため



はこわなの説明をする後藤副所長＝熊本

森林技術・支援センターが考案した「巾着式あみはこわな」の普及を目的に、2月27、28日の両日、山都町、菊池市内の会場において熊本県・関係市町村担当者及び地元猟友会メンバーなど約80人が出席し「巾着式あみはこわな説明会」を開きました。当日は、森林技術・支援センターの後藤寿也副所長が「巾着式あみはこわな」を制作考案した経緯や材料費が安く、軽いこと、設置が簡単であることなどを実演を交えながら説明しました。猟友会の会員などからは、「どこで販売しているのか。」「えさは何か良いか」など設置に関する具体的な質問が多くあり、シカ捕獲に積極的に取り組む姿勢や関心の高さが伺える有意義な説明会となりました。



## 平成25年度国有林間伐推進コンクール表彰式 林野庁長官賞を始め3社が受賞

平成25年度国有林間伐推進コンクールの表彰式を2月20日九州森林管理局で行いました。

コンクールの目的は、国有林野事業における間伐などの発注事業や立木販売において、優れた品質の森林整備を行い、高い生産性などを達成した先駆的な取り組みを競い、その作業システムの特徴、技術、手法、成果を評価し、検証し、優秀な事例を公表することにより、効率的かつ低コストな間伐などについて民有林を含め普及、定着及び推進に資することとしています。



今回表彰されたみなさん

今回のコンクールでは、九州森林管理局において推薦した宮崎県小林市の有限会社高崎産業が初回間伐の車両系搬出間伐部門で最優秀賞の林野庁長官賞に選出され1月20日林野庁で表彰されました。

受賞ポイントとは、これまでの森林作業道を先行して開設。その後、各工程をそれぞれ集中して行っていたが、森林作業道の開設と各作業工程間を密にし、適切な人員配置と高性能林業機械の有効的な稼働により生産性を向上させたことが高く評価されたものです。

また、九州森林管理局長賞として熊本県菊池市の有限会社秋吉林業並びに熊本県湯前町の九州横井林業株式会社が間伐作業におけるトータルコストの縮減が評価され受賞されました。今後においても、民有林を含め普及、定着などに資する観点から、多くの事業者からのコンクールへの参加を募ります。

(担当)資源活用課

## 低コスト造林等導入促進技術普及報告会 鹿児島大学との共催180人が参加

2月3日、低コスト造林等導入促進技術普及報告会を九州森林管理局において鹿児島大学との共催により、研究機関、森林組合、生産事業者などの関係機関、森林管理局署職員など約180人が参加し開かれました。

拡大造林期に植栽された人工林が主伐可能年齢に達し、本格的な人工林の利用期が到来しており、皆伐後の再造林を推進するうえで低コスト造林技術の確立と普及が重要となっています。また、「再生エネルギー固定価格買取制度」が施行され、九州管内においてバイオマス発電施設



大勢の参加があった報告会の様子

設の建設が予定されており、燃料としての利用に係るコスト分析が必要となって来ます。

造林コストの低減を図るには、伐採から地拵え・植付までの一体的作業における作業効率化に取り組む必要があります。また、造林コストの低減だけではなく、規格外の未利用材を搬出することにより、地拵え・植付の低コスト化が図られるとともに、販売収益を得ることが出来ます。寺岡行雄鹿児島大学農学部教授から、国有林のフィールド・事業を活用して規格外未利用材の搬出・植付など各種工程調査・コスト分析などの成果について報告がありました。

今後、増大するバイオマス燃料の供給と低コスト造林の推進に向けた提言など有意義な報告会となりました。

(技術普及課)企画官  
(技術開発担当)

## 鹿児島森・林業興大会が開かれる

【鹿児島森林管理署】2月5日に林野庁から平之山俊作林業・

木材産業情報分析官、九州森林管理局から上田浩史業務管理官出席のもと、平成25年度鹿児島森・林業興大会が鹿児島市内で盛大に開かれました。今回の大会では、当署治山グループの西山太英治山技術官が、「桜島上流荒廃地における課題と新たな取り組み」と題し、桜島地区民有林直轄治山事業地内で行った航空実播工による緑化工の活動事例を発表しました。本発表は、今年度に行われた第53回全国治山研究発表会において最優秀賞を受賞したことに伴い、当署が行った桜島地区における治山事業の施行効果を発表し、出席された多くの鹿児島県内の林業関係者に治山事業のPRをすることができました。



森林・林業興大会が開かれた会場(鹿児島)



## 第2回

# 奄美群島世界自然遺産登録推進検討会を開く

平成26年2月7日鹿児島県奄美市において、鹿児島県主催の

第2回奄美群島世界自然遺産登録推進検討会が開かれました。

この検討会は、奄美群島の世界自然遺産登録に向けた課題の対応について検討することを目的に設置され、第2回検討会では、主として①照葉樹林の再生などによる遺産区域の緩衝機能の強化②自然環境に配慮した公共事業③想定される観光利用の増大に関する予測と適正化方策④地域社会の持続的発展と遺産価値の保全との両立についての4項目について検討が行われま



第2回検討委員会の様子＝奄美市

した。

委員からは、「照葉樹林の再生については、モデル地域を作り積極的に取り組むべき」「公共工事については、補修や災害復旧においても、現状復旧にとどまらず環境に配慮した方法で行うべき」「各種課題の解決には地元自治体が主体的に取り組むことが重要」などの意見が出されました。

九州森林管理局からは近藤昌幸計画課長が出席し、他局における具体的事例を紹介しながら公共事業における環境への配慮の必要性などについて意見を述べました。

今後は、平成26年3月末までにこれまでの検討結果を踏まえた中間報告のとりまとめが行われ、平成27年2月頃に最終報告のとりまとめが行われる予定です。

(担当＝計画課)

【沖縄森林管理署】当署では、

琉球大学と共催で、沖縄県立博物館を会場に公開シンポジウム

を行いました。また、関連イベントとして、自動撮影カメラで捉えたイリオモテヤマネコやその他の動物の写真など、約140枚の写真パネルを展示。イリオモテヤマネコは、世界で西表島のみに住息する最も希少性の



国有林の取り組みを紹介する濱田技官＝沖縄

高いネコ科と言われています。

当署では、西表島森林生態系保護地域の厳正な保全管理を通じて、イリオモテヤマネコをはじめ国内有林内の希少な野生動物植物の保護に取り組むとともに、琉球大学や多くの研究者から協力と支援を受け、平成5年度よりイリオモテヤマネコ保護の巡視や調査に取り組んでいます。今回のシンポジウムでは、前半で参加者に西表島の森林と野生生物について関心を高めて頂くため、琉球大学の久保田先生と佐々木先生、東海大学の河野先生から、西表島の生態系、鳥類、希少昆虫類などについて講演があり、後半では、当署の濱田巧森林整備官が「イリオモテヤマネコの保護に向けた国有林の取組」

について紹介。また、琉球大学の中西先生と伊澤先生が当署と

共同で行ったこれまでの調査・研究で明らかになってきたイリオモテヤマネコの分布状況や生態についての知見と、今後取り組むべき課題について講演がありました。今回のシンポジウムには多くの県民が参加。アンケートでは「イリオモテヤマネコの生態がよく理解できた」、「森林管理署がイリオモテヤマネコの保護に取り組んでいることが理解できた」などの意見が多く寄せられました。今回のシンポジウムを通じて、イリオモテヤマネコや西表島の国有林とそこで暮らす野生生物について、県民の皆様の理解と関心を高めることができました。



五十半ばになると何かとおっくうになり動きも悪く、若かった頃のような行動力と夢は、どこに行ってもたのたのうかと

## もう一度夢に向かって

考えてしまいます。同年代の皆様はいかがでしょうか？

話は変わりますが、長女の大学時代の同級生（留学生）で10

ています。

この青年が昨年の大晦日から正月（ほぼ毎年来ておりますが）にかけて我が家に訪れ、近い将来、日本で会社を立ち上げる話

いかがでしょうか、同年代の皆様も若かった頃のように、夢のある明るい人生を一緒に楽しんでみませんか。

(治山課長 山部義臣)



# 準フォレストラー協議会を開催

【都城支署】当支署では、準フォレストラーの活動促進による市町村森林整備計画などの円滑な策定や民国連携した森林整備の一層の促進に向けた調整を図ることを目的に、当支署と宮崎県農林振興局職員、準フォレストラー、森林組合の森林施業プラシナ、市町村務担当者などからなる「準フォレストラー等活動促進連絡協議会」を平成23年11月に設置し、当支署が事務局を担当。本年度の協議会を2月25日に関係機関から21人の参加を得て開き、九州森林管理局技術普及課の甲斐博文企画官から「準フォレストラーによる民国連携について」、森林技術・支援



協議会へ参加した関係者＝都城支署

センターの後藤寿也副所長、田中優哉業務係長から「低コスト造林について」の情報提供があり、西諸県農林振興局の川畑昭一、副主幹と北諸県農林振興局の深田学副主幹より木質バイオマス供給の現状などについて報告がありました。当日は、当支署管内の民有林・国有林の行政関係者らが一同に集まる良い機会となり、北諸県及び西諸県地域の森林・林業・木材産業の発展のために、今後とも連携を強化していくことが確認出来ました。



ナッツバキの別名をシヤラノキといいますが、この木がインドのシヤラノキと間違っって伝えられたため、インドのシヤラノキは熱帯地方の樹木で日本では育たないそうです。

ナッツバキの特徴は、樹皮が剥がれて縞模様になることです。似た樹木にリョウウ、ヒメシヤラがあります。ヒメシヤラは樹皮が縞模様にならず、リョウウの生える標高にはナッツバキはほとんどありませんので標高で区別できます。

樹木の上部3分の1以上に花が咲きますので、一般的には目

森林はあなたの木づかいを待っています  
5月10日 ロードショー  
木を使うこと・森林を育てること、実はつながっています



農林水産省 林野庁

## 77 ナッツバキ(ツバキ科)

しょう。

の高さの観察はできず森を歩いて花卉が落ちてくるのを見て花が咲いていることに気づきます。花の特徴としては花卉にしわがあることです。また1番外側の花卉には薄い緑色が混じっていますので、花を手にとったらじっくりと観察して見ましょう。名前は、夏にツバキのような花が咲くために付けられたシンプルな名前です。

冬芽は2枚の鱗片で覆われていますがヒメシヤラは4〜6枚の鱗片が2列に並んでいます。植木市などで比較観察されると冬芽構成の事実に驚かれるので



今年の二月は異常に寒く日本列島が大雪に見舞われた。東京都や山梨県などで一部の世帯が孤立したほか農産物関連の被害も相次いだ。郷里の阿蘇地方も積雪のため農業被害を受けた▼ここ数年の異常気象は明らかに地球温暖化の影響と言われており森林吸収源対策の重要性を実感する▼三月になり少し寒さが緩み、庭の梅の花が散り桃の花が咲き、白木蓮の蕾が膨らんできた。六十路を迎え一年の早さを痛感する▼光陰矢のごとし、四三年の山官生洋が一月を切った。最初の赴任地で植えたスギが我が身と同じく主伐時期を迎えている▼対馬署と屋久島署の離島勤務では、それぞれの島と人のすばらしさにふれ貴重な思い出となっている▼最近離島を希望する者が少ない。住めば都、離島勤務を前向きに捕らえ、我が職場でないと体験できない自然や人情を大いに楽しんでほしいと思う▼串間管林署を振り出しに9回の転勤、その間出会いのお世話になった人に感謝の気持ちでいっぱいである。皆さんのおかげで今の自分があると。

(一)